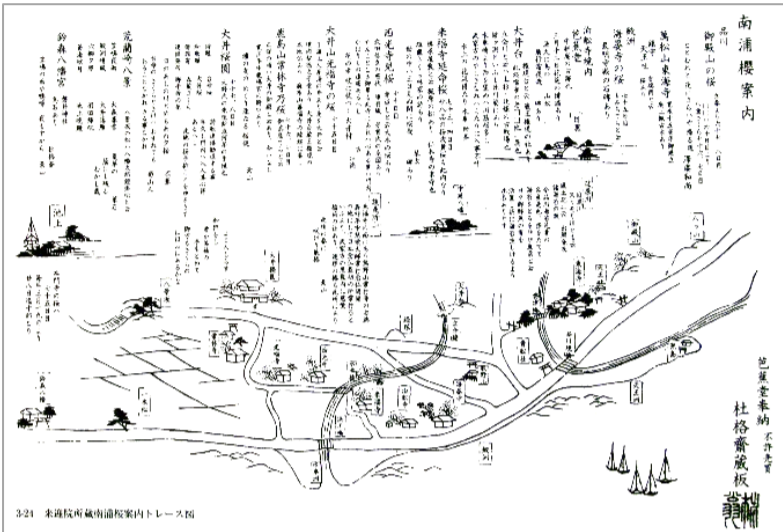


スクランブル

大井は昔、桜の名所だった

今年もお花見シーズンが間近になってきましたね。スクランブルでは、これまでに何度も近隣のお花見スポットを紹介してまいりましたが、今回は品川区立品川歴史館を訪ねて、学芸員の富川さんに、昔の人々のお花見の様子をうかがってきました。

① 南浦櫻案内
特別展図録「大井」より転載



当時の観光案内図「南浦櫻案内」①に大井桜園・常林寺・光福寺・西光寺・来福寺が紹介されています。

大井には、鎌倉時代、鶴岡八幡宮から多摩川を渡り、東京湾沿いを北上して常陸へ抜ける鎌倉古道が通っていました。この辺りでは、池上通りから品川歴史館の裏手を通り、大井三ツ又の辺りで再び池上通りに合流していたと考えられています。西暦800年〜900年代、この辺りにお寺が次々と創建されていたので、鎌倉時代にはすでに人々の往来で賑わっていたことがわかります。桜の名所として有名だったのは、江戸時代1800年代頃。寺社を中心に桜が植えられ、將軍から庶民まで多くの人が足を運び、今風にいえば江戸のリゾート地でした。御殿山から池上にかけて、小旅行をしながら桜を眺め、俳句を読んだりして楽しんでいました。

② 常林寺(来迎院) 大井6丁目
1833年(天保4年)に来迎院と改称されています。江戸時代には、鹿島の要桜と名付られた名木がありました。將軍の鷹狩の時の休息所になっていたの。で、「お茶屋寺」と呼ばれていたといわれています。明治になり神仏分離となるまでは、お隣の鹿嶋神社は境内の中にもありました。当時は鹿嶋神社のお社も海の方を向いていたそうです。
③ 光福寺 大井6丁目
鎌倉時代、了海上人の父が蔵王権現に祈願したところ、妻が懐妊し上人を出産。その時産湯に使った境内の湧水を大井と呼んでいたことが地名の由来だとい説があります。この井は今も残っています。明治時代まで、沖合の漁師たちの目印になっていたといわれる程の大イチョウも有名です。



←現在の来迎院の桜

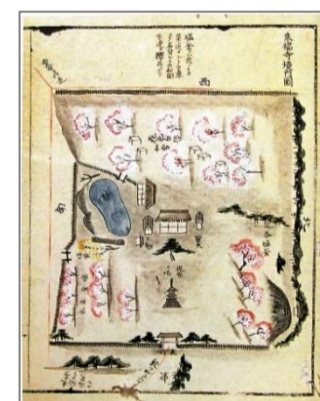


現在の西光寺 児桜↓



② 大井桜園
特別展図録「大井」より転載

④ 大井桜園
大井村の名主で俳人であり、南浦櫻案内を作成した、大野五蔵惟図の屋敷があったところです。お花見の人々のために屋敷を開放して大井桜園と呼んでいたように、現在の鹿嶋神社向かいの保育園の奥辺りにありました。

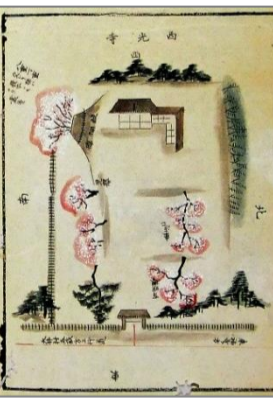


⑤ 来福寺
特別展図録「大井」より転載

⑤ 来福寺 大井3丁目
「本尊は土の中(今の大井1丁目)にあった庚申堂」から読経が聞こえ掘り出したとされる延命地藏で、経読地藏と呼ばれています。江戸時代には「本尊にちなんで「延命桜」が有名でした。境内には江戸時代に読まれた雪中庵蓼太の「世の中は 三日見ぬ間に 桜哉」の句碑があります。



④ 西光寺 児桜
品川歴史館所蔵



③ 西光寺
特別展図録「大井」より転載

⑥ 西光寺 大井4丁目
明治26年火災にあい、建造物と桜の名木が消失してしまいました。江戸時代から唯一残る「児桜」④が知られています。品川歴史館に、この児桜のアクリル標本があります。夜になるとこの桜が子どもに化けて遊んでいた...というおとぎ話があるそうですが、お話に思わすうなずきたくなるような、可憐で可愛らしいお花です。

品川区制70周年記念 品川歴史館企画展
相沢岩男とある品川ー「ふるさと品川 Sketch」よりー
観覧料/一般100円、小・中学生50円
70歳以上、障害のある方、品川区立の小中学生は無料
企画展最終日の3月26日(日) 14:00~15:00(予定)
品川歴史館庭園の大島桜の開花に合わせて「二胡演奏会」が開催されます。
*雨天時は書院にて開催 *予約不要



↑ 来福寺の句碑



品川歴史館では昨年から、今ある希少な桜をいつでも見られるように、また後世に残したいということで、桜のアクリル標本作製を始めたそうです。今はまだ「西光寺の児桜」、「普賢象」⑥(雌しべが普賢菩薩の乗る象の鼻に似ていることから名前がついた。桜新道でも見られる)の2種のみですが、これから少しずつ増やしていく予定とのことです。
道路の区画整理や、空襲・火事などの様々な事情で、姿を消してしまったり大井の桜ですが、一大観光地だった当時を偲び、想像しながら散歩する、いつもと違ったお花見もたまにはいいかもしれませぬ。
【平林・吉田・梶山・檜山】



⑥ 普賢象
品川歴史館所蔵